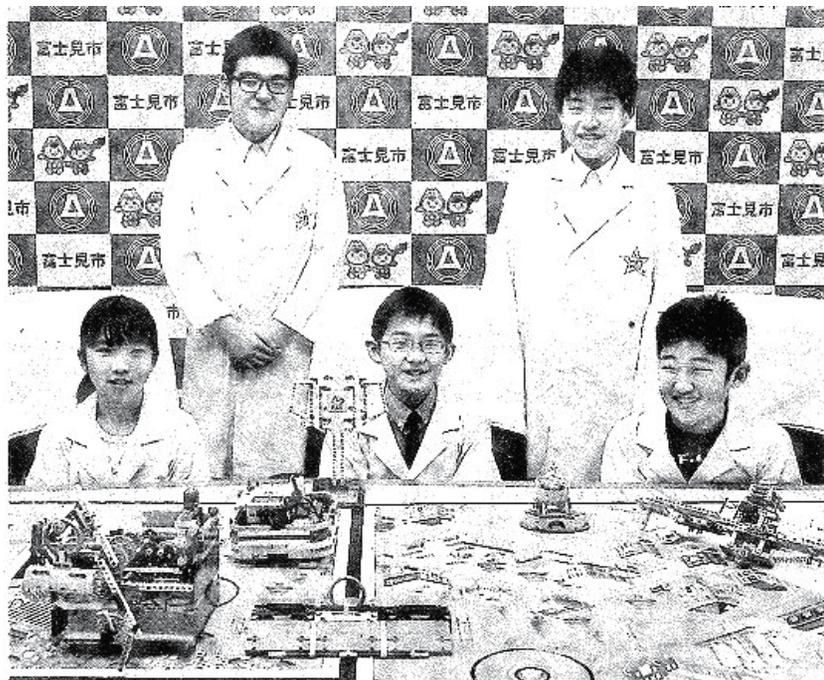


読売新聞 2018年4月21日(土曜日)付

# 目指せ世界一のロボ

富士見「クレファス」の小中生



富士見市のロボット科学教育教室「クレファスふじみ野校」に通う小中学生のメンバーが、5月に米国で開催される世界最大規模の青少年ロボット競技会「ファーストレゴリーグ」に、日本代表として初出場する。目標の優勝に向け、新たなロボットの製作などに力を入れている。

## 米で大会、英語も特訓

ファーストレゴリーグは、ブロック玩具メーカー「レゴ」(デンマーク)が主催しているブロック玩具で作るロボットの競技会。対象は9歳〜16歳で、世界大会を目指し、約80か国それぞれで行われる予選に約3万チーム・24万人が参加した。

2月11日に東京工業大(東京都)で行われた日本予選には、105チームが参加した。クレファスふじみ野校に通う、小学5年生〜中学3年生の男女6人がメンバーの「FUJ7」が、今後の可能性が評価され、特別賞を受賞し、上位7チームと共に世界大会出場を決めた。

各国の予選と世界大会のテーマは共通で、今大会は「水」。2分30秒の制限時間内に、水道管に見立てた

国内予選を突破したロボットを前にした「FUJ7」のメンバー(富士見市役所で)

ブロック玩具を運び、交換するなどの動作を競う「ロボット競技」と、開発の工夫などを発表する「プレゼンテーション競技」の合計点で順位を競う。

メンバーはブロック玩具を本体にしたロボットの開発を昨年10月に始め、同年12月に完成させた。その後、動作を制御するプログラムミクスの開発と、ロボット本体の調整を進めた。現在は、世界大会に向け新型ロボットの開発に取り組む。

世界大会は今年5月18〜20日、米国・カリフォルニアで開かれる。プレゼンテーション競技は英語で行うため、6人は質疑応答のやりとりを含め、英語も特訓中だ。同教室の石原潤一校長(44)は「設計、プログラム製作など、6人がそれぞれの得意分野を生かし、つかんだ世界大会。チームワークをさらに発揮してほしい」と期待している。

リーダーで、同市に住む西武学園文理中1年上田壮一郎君(12)は「世界大会の上位を目指すには新型ロボットが必要。時間との闘いだ、力を合わせて頑張りたい」と話している。